

第1846号  
令和6年9月15日

発行  
最高裁判所  
事務総局  
(毎月1日・15日発行)

# 裁判所時報

## (目次)

◎記事	1
●深山卓也最高裁判所判事の退官	
●中村慎氏最高裁判所判事に就任	
●人事異動（8月24日～9月2日）	
◎裁判所だより	2
●「お堀に映える祭絵巻 水の都 西条」 (松山地方・家庭裁判所西条支部、西条簡易裁判所)	
◎首席家庭裁判所調査官・次席家庭裁判所調査官一覧	3
◎首席書記官・次席書記官一覧	3



## 記事

### ◎深山卓也最高裁判所判事の退官

最高裁判所判事深山卓也氏は、9月1日限り定年により退官された。

### ◎中村慎氏最高裁判所判事に就任

内閣は、9月11日中村慎氏を最高裁判所判事に任命し、同日皇居において、認証官任命式が行われた。

〈略歴〉昭和61年4月司法修習生、昭和63年4月東京地裁判事補、平成12年4月最高裁裁判所調査官、平成13年8月最高裁総務局第二課長兼第三課長、平成15年8月最高裁総務局第一課長、平成22年9月最高裁秘書課長兼広報課長、平成24年12月東京地裁判事部総括、平成25年9月最高裁総務局長、平成30年9月水戸地裁所長、令和元年9月最高裁事務総長、令和4年6月東京高裁長官

### ◎人事異動

#### 東京高等裁判所判事

静岡地方裁判所長 永渕健一

#### 静岡地方裁判所長

事務総局刑事局長兼図書館長 吉崎佳弥

#### 事務総局刑事局長兼図書館長

東京地方裁判所判事 平城文啓

(以上8月24日)

#### 東京地方裁判所判事補

神戸地方・家庭裁判所姫路支部判事補 庄司真人

(8月26日)

#### 東京地方裁判所判事補

地主麻紀

#### 新潟家庭・地方裁判所長岡支部判事

東京地方裁判所判事 武見敬太郎

#### 定年退官

飯山簡易裁判所判事兼長野簡易裁判所

判事 小池咲子

#### 依頼退官

日向簡易裁判所判事兼延岡簡易裁判所

判事 佐藤広明

(以上9月1日)

#### 東京地方裁判所判事

東京高等裁判所判事 矢野直邦

#### 東京地方裁判所判事

近藤貴浩

#### 事務総局総務局付

岩尾悠矢

#### 事務総局総務局付

東京地方裁判所判事 岩尾悠矢

(以上9月2日)



## ◎裁判所だより

## 「お堀に映える祭絵巻 水の都 西条」

(松山地方・家庭裁判所西条支部、西条簡易裁判所)

西条市は、愛媛県東部に位置し、南は西日本最高峰の石鎚山、北は瀬戸内海に囲まれた自然豊かなところです。その歴史は古く、寛永13年（1636年）に伊勢神戸城主一柳直盛公が西条藩主に封ぜられ、寛文10年（1670年）には徳川家康の孫である松平頼純公が藩主となり、明治維新までの約200年間、松平三万石の陣屋町として栄えました。今も大手門が残る陣屋跡のお堀に面した御殿前に、松山地方・家庭裁判所西条支部があります。



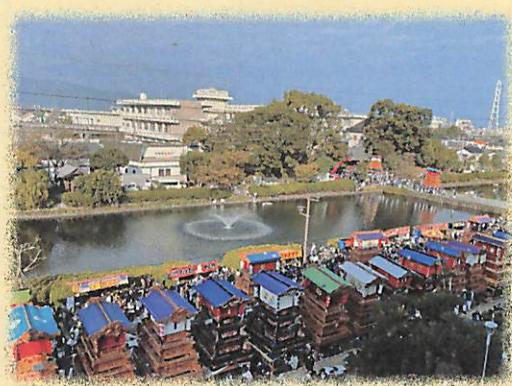
(写真は、御殿前から望む松山地方・家庭裁判所西条支部、西条簡易裁判所庁舎。左手一番手前の建物)

石鎚山系から加茂川によってもたらされた豊富な地下水は、市内いたるところで自噴し「うちぬき」と呼ばれています。その名は、江戸時代中期頃、鉄棒を打ち込むだけでこんこんと水が湧き出したことに由来すると言われています。今でも、庁舎も含め旧西条市街地には上水道が存在せず、冬は暖かく夏は冷たい生活用水として市民の生活を潤しています。その美味しさは、岐阜県で行われた全国利き水大会において2年連続で日本一おいしい水に選ばれるなど、折り紙付きで、お堀へと繋がる親水エリアや道路脇のあちこちで湧き出しているうちぬきには、市外から訪れた人が水を汲む姿が見られます。「水の都」と呼ばれる西条市の自慢の一つです。



(写真は、うちぬき)

うちぬきと並ぶもう一つの自慢が西条祭りです。最も規模の大きい伊曾乃（いその）神社の例大祭は、毎年10月15日と16日の二日間、夜を通して行われ、約80台の「だんじり」と4台の「御輿（みこし）」が奉納されます。一つの神社に奉納される山車の数としては全国でも随一と言われています。一般的に、彫刻を施した「だんじり」と呼ばれる山車は「曳く」ものですが、西条では「担ぐ」構造になっているところが珍しい特徴です。15日未明に伊曾乃神社で行われる「宮出し」や16日未明の「御旅所」では、提灯に火を灯しただんじりと御輿が集結します。担ぎ手の歩みが揃った時、上下に揺れるろうそくは絶妙な明暗を奏で、その美しい姿には息を呑みます。夜が明け、御旅所を後にしただんじりは、「御殿前」（地家裁西条支部前）を目指します。夜の提灯姿から一変して様々な木彫り細工が顕になっただんじりの華麗な姿はまた趣が異なります。太古の神話から源平合戦、三国志、花鳥に十二支と、様々な題材が彫り込まれ、漆や岩絵の具で彩色が施された豪華なものもあります。その昔、江戸城にて、仙台の殿様が祭自慢に花を咲かせていたところ、西条の殿様が「西条に比べれば物の数ではない。」と対抗し、後日、絵師に描かせ仙台の伊達公に贈った絵巻物が、戦後まで伊達家に残されていました。二百數十年前も今も、大手門に向かい勢揃いしただんじりがお堀の水面に姿を映す美しい様は変わることがありません。西条支部の庁舎は、長年にわたり、晚秋を迎えるたびその様子を見守ってきました。清水の湧き出す静かな町に、年に一度訪れる情熱溢れる二日間なのです。



(写真は、御殿前に整列するだんじり)

首 席 書 記 官 · 次 席 書 記 官

令和6年9月1日現在

※次席書記官は五十音順

首 席 書 記 官 · 次 席 書 記 官

令和6年9月1日現在

※次席書記官は五十音順